

平成28年度小諸市中学生海外文化・語学学習事業

木村熊二の足跡を訪ねて

アメリカ HOPE COLLEGE での ENGLISH CAMPに参加

7月28日から8月8日まで、アメリカのミシガン州にあるHOPE COLLEGE（ホープカレッジ）で行われたイングリッシュ・キャンプのプログラムに、小諸市の中学生が参加しました。

派遣先のホープカレッジでは、小諸義塾の創設者である木村熊二が、1870年に渡米した際に学んでいたという縁があり、平成25年度から小諸市の中学生を派遣しています。異文化体験と語学学習のプログラムは、ホープカレッジがその一切を組み立てています。今年度は市内の中学校から8名の生徒が参加し、英語授業や様々な文化的場所の訪問、2泊のホームステイを体験しました。

▼問い合わせ先 学校教育課 学校教育係

英語授業

10日間の滞在のうち計5日、午前中に英語の授業を受けました。聞くのも話すのもすべてが英語で、現地の食べ物を食べて味の表現を練習したり、ペアでの会話やゲームを通して英語に触れました。また、教室外でも、現地の人に話しかけて自己紹介や会話をする課題が出るなど、日本ではなかなか体験できない英語の学習ができました。はじめはシャイだった生徒も、積極的になっていく様子が見られました。



文化体験・ホームステイ

語学学習だけでなく、異文化に触れることで相互理解を深め、国際的な視野を広げることも、この事業の目的の一つです。参加者は大学のあるホランドや近隣の町を巡り、現地の文化や生活の一端を体験したほか、プログラムの終盤には、地域の家庭で2泊のホームステイを体験しました。また、ホストファミリーとの交流以外にも、副学長補佐宅でのホームパーティーや、様々な訪問先で現地の人と話しかけてくれるなど、多くの交流の機会を持つことができました。

～帰国後報告会～

8月17日、市長・議長・学校関係者などに向けて、プログラムでの成果を参加者から報告しました。現地での活動の様子を交えながら、それぞれが感じた文化の違い、このプログラムを通じて学んだことなどを発表しました。

参加者の発表内容より

- ・英語の授業では、答えが分かれば誰でも自由に発言してもよくて、先生にあてられた人が答える日本との違いを感じた。
- ・ホームステイではとても親切に接してもらえて、お別れが辛かったけど、またおいでと言ってもらえた。本当に家族の一員になれた気がして嬉しかった。



木村熊二と HOPE COLLEGE

現地では木村熊二に関する解説も受けました。ホープカレッジで学ぶことになった経緯やその功績など、その足跡を学ぶことで新たな角度から小諸の歴史を知ることができました。また、宿泊した寮も、かつて木村熊二が住んでいたところでした。

